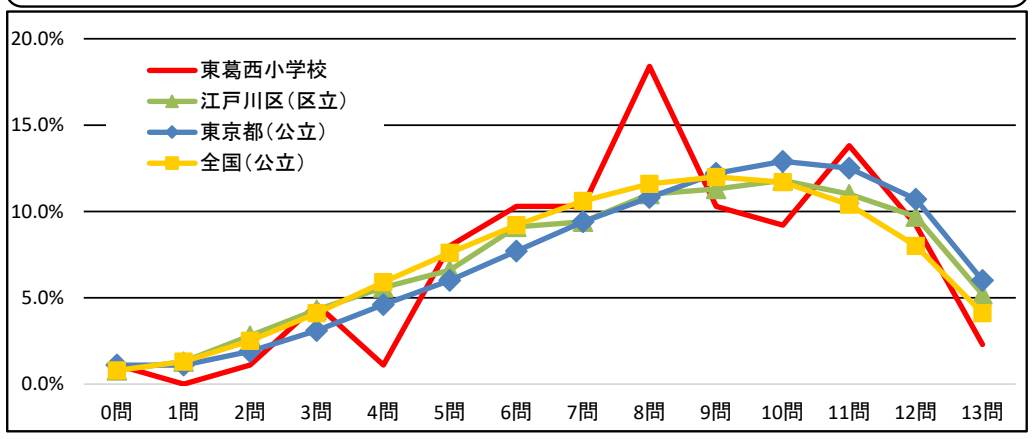
令和8年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【国語】江戸川区立東葛西小学校

正　答　数　分　布

平均正答数

東葛西小学校：8.2問　　江戸川区（区立）：8.1問

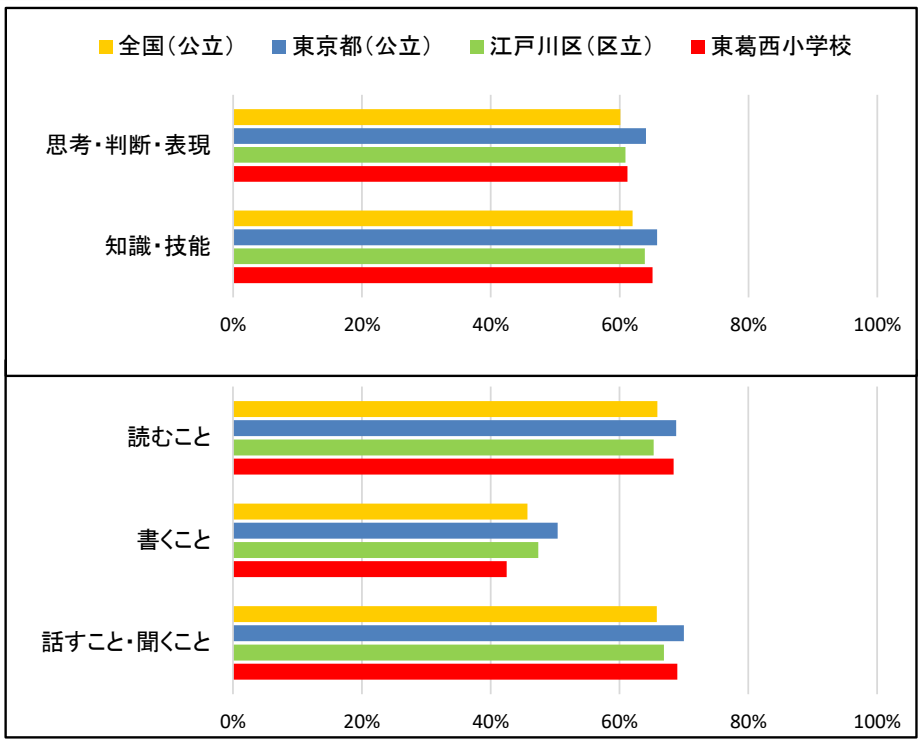
東京都（公立）：8.4問　　全国（公立）：7.9問



【平均正答率の差】

東葛西小学校	63%
江戸川区（区立）	62%
東京都（公立）	65%
全国（公立）	60.9%
都との差（ポイント）	−2.0

「領域別」の結果

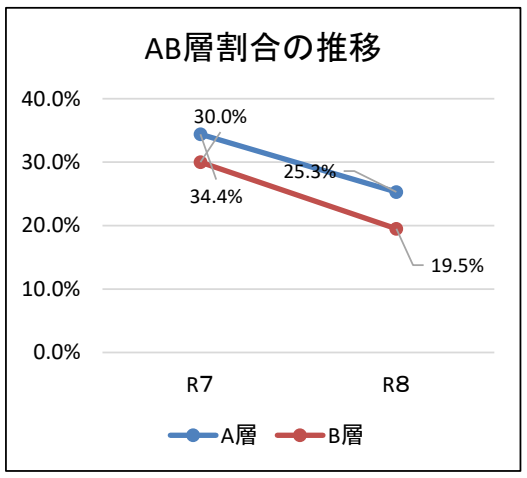


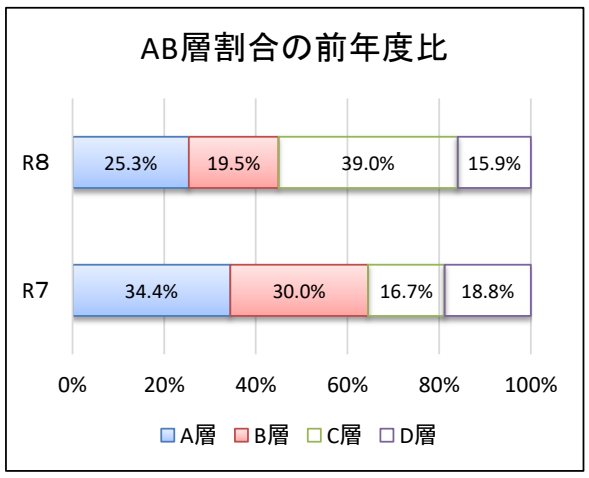
四　分　位　に　お　け　る　割　合　（　都　全　体　の　四　分　位　に　よ　る　）

上位 ◀――――――▶ 下位

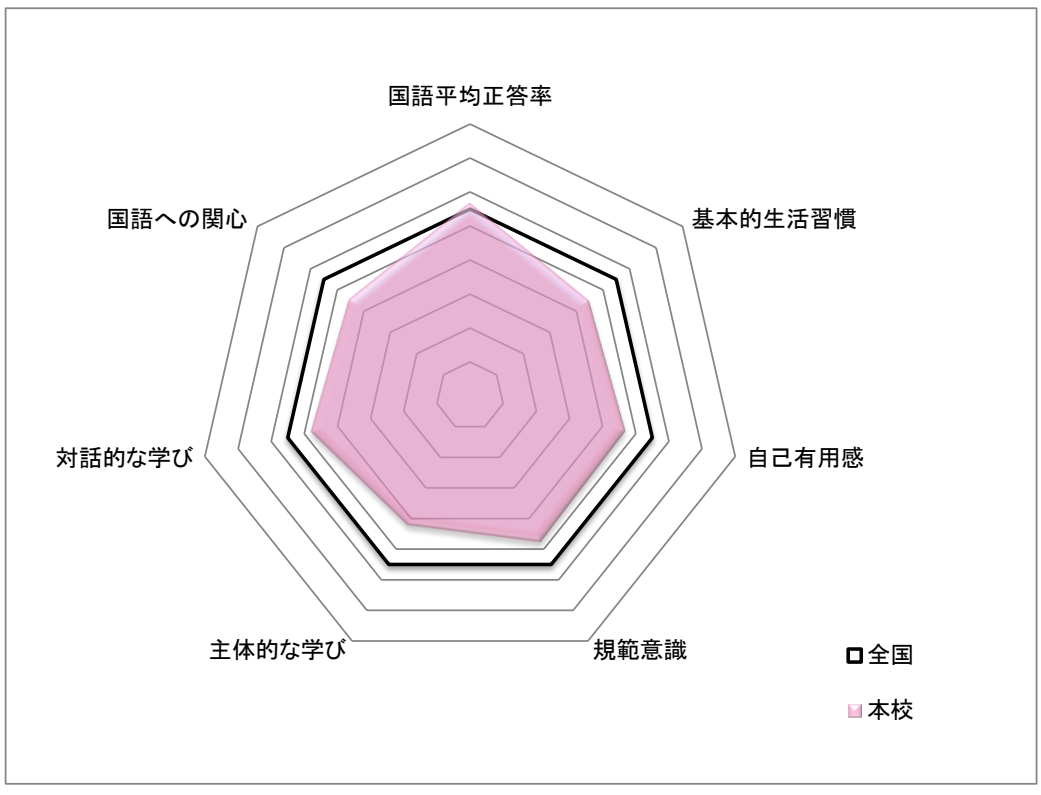
国　語	A層	B層	C層	D層
	11～13問	9～10問	6～8問	0～5問
東葛西小学校	25.3%	19.5%	39.0%	15.9%
江戸川区（区立）	25.9%	23.1%	29.5%	21.4%
東京都（公立）	29.2%	25.1%	27.9%	17.8%
全国（公立）	22.5%	23.7%	31.4%	22.2%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

●平均正答率
　東京都との平均正答率の差は2%である。チャートからは、主体的な学びへの意欲が低いことが分かる。国語の授業で得た知識を普段の生活で活用することができないと答える児童が多かった。自分の考えを表現する機会を設け、成功体験を積めるようにしていく。

《家庭・地域への働きかけ》

●学校HPやテトルを通しての情報発信
　学力調査の日程や分析結果を周知している。事前に学力テストの日程や目的を知らせることで、児童の家庭学習の充実につながると考えている。

《現状把握》

●結果分析
「書くこと」領域の正答率が42.5%と半数以下である。問題を読み解き解答する記述式の問題が2問出題されているが、無回答率がそれぞれ3.4%・6.9%であった。長文を読むことへの苦手意識があったり、文章の要点をつかむ力の定着が不十分であったりすることが分かる。改善策として、まずは長文に対する苦手意識をなくしていく必要がある。日頃の授業から、文章読解問題に取り組ませたり、文章を構成立てて読むことの指導をしたりすることで、記述問題に対する無回答を0%にしていく。
　また、知識及び技能面では、漢字の正答率が高い一方で、文章から情報の扱い方について問われている問題の正答率が低かった。したがって文章読解力を向上していくことを目標に指導していく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

●校内研修
　ねらいに応じた効果的な指導方法や教材への理解を深めるために、校内研修を設けている。今年度の研究教科である算数科だけでなく、様々な教科への研究を深められるように研修授業を実施している。

・基礎学力の保障

●読書目標
　各学年に読書の年間目標ページ数を設定し、本を読むことへの習慣化を図っている。更に、毎週火曜日・木曜日は、朝読書の時間とし、「読むこと」への学力向上につなげている。
●漢字検定
　毎学期末に漢字50問テストで90点以上取ることを合格としている校内漢字検定を実施している。

・学習習慣の確立

●東小スタンダード
　本校では、授業の受け方や持ち物についてルールを決め、共通理解を図っている。
●家庭学習
　各学級で毎日宿題を出し、家庭での学習時間を設けている。また、学期に1回「家庭学習キャンペーン」を設定している。家庭学習キャンペーン中は、学年の目標時間を意識し、質の高い学習ができるように声を掛けている。

・AB層の育成

●文章読解力向上への取組
　朝学習の時間は、全学年で文章読解の問題に挑戦している。4～6年生は、よむYOMUワークシートを活用し、新聞記事を読むことに慣れたり情報を整理して問題を読み解いたりすることを行っている。